



ひまわり通信

残暑お見舞い申し上げます



毎日大変な猛暑が続いています。遂に我が家では一枚しか作っていない田んぼの水が無くなりました。降る時はバケツをひっくり返したようでも降らない時は熱風が舞う気候は地球が悲鳴を上げているようです。適度な水分補給と休養で乗り切りましょう。

再び原告全面勝訴

―「黒い雨」訴訟―

広島市の原爆投下から76年目の8月6日をひかえ「黒い雨」集団訴訟で広島高裁は原告84人全員を被爆者と認めました。国は上告を断念し、菅首相は7月26日に原告84人に直ちに被爆者健康手帳を交付するとし「同じような事情の方については、早急に救済を検討したい」と表明しました。

広島での「黒い雨」被害の救済を求める運動は40年以上続いています。原告のうち19人が死去され、被爆者の高齢

化が進んでいます。広島県と広島市は援護区域の拡大・見直しをもとめています。被爆者に残された時間はわずかです。唯一の戦争被爆国の政府の責任が厳しく問われます。

重症除き原則、自宅療養

―突如の方針転換―

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。このままパラリンピックを開いて大丈夫？と不安に思っておられる方も多いのではないのでしょうか。

政府は8月2日、感染者の入院に関する新たな考え方を公表しました。東京都などの感染拡大地域では、重症者や重症化リスクの高い患者を重点的に入院させ、それ以外の患者は原則的に自宅療養とすることを可能にするとしています。これで本当に大丈夫？病床確保の責任を事実上放棄して在宅死を次々生みかねない方針に思えます。政府分科会の尾身会長は「圧倒的に検

査のキャパシティ（能力）が増えてきた。チョットでも具合の悪い人、感染の心配のある人は、職場、学校、地域のどこでも気軽に検査できる体制を国・自治体がその気になればできる。これをぜひやっていただきたい」と述べられています。引き続き庄原市にも求めていきます。

人口問題を考える

―民間会議との意見交換会―

―教育民生委員会―

7月30日に右記の会が持たれました。「庄原の人口問題をとことん考える民間会議」は2018年1月29日に「庄原市の人口減少対策を民間団体が推進することにより、市民生活の安定及び地域経済の持続的な発展に寄与すること」を目的として設置されました。

庄原市の人口減少状況は合併後16年3か月で10,732人、24.2%の減少となっています。①人口減少の実態②人口減少による庄原市の課題

③今までの人口減少対策の取り組み課題④オール庄原体制で成果の出る人口減少対策の取り組みをの資料をもとに自己紹介を兼ね思いを出し合いました。

庄原市の弱み、強みを出し合い深めていけば見えてくるものもあるのではと感じました。県立大学の生徒さんの就職先は県外、市外で市内には数人といった実態も聞いてはいましたが、残念です。今後とも継続をとということで散会しました。

2021 原爆展 in 庄原

パネル写真「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」、被爆者自らが描いた「市民が描いた原爆の絵（複製）」の展示を行います。

日程 8月16日(月)~23日(月)

展示場所

ジョイフル2階
(旧おもちゃのハラ)



どんなことでも
お気軽にご相談ください
ふじき百合子
080-1906-4673